

『新たな教師の学び』実現に向けた校内研修の充実

経過

個別最適な学び・協働的な学び・GIGA スクール構想の実現・学習指導要領の着実な実施といった令和の日本型学校教育のあるべき姿や『新たな教師の学び』実現に向けた校内研修の充実を念頭に置き、よりよい研修講座を運営できるように調査研究を進めてきました。

目的

- I 学習コンテンツの質を保証する、
 - II 校内研修も含む研修講座の在り方を構築する、
 - III 受講者のふりかえりを充実させ、教師の学びを可視化する、
- の3点について、具体的な取組をスモールステップで繰り返し、受講者の困り感や課題に寄り添った研修講座の構築・運営を行っていくことを目指します。

取組

I 学習コンテンツの質を保証する。

研修終了後も活用しやすいコンテンツの提供を目指しました。

(1) Google Classroom を用いた研修講座の実施例

高等学校初任者研修対象者の「クラス」を作成し、連絡や課題の提出、成果の確認などに使用した。

【夏期研修Ⅰ(オンライン)】

勤務校において、Zoom で講義を受けた後、各個人が google スライドまたはドキュメントで提出物を作成。Classroom でグループメンバーの提出物を確認しながら Zoom のブレイクアウトルームで研究協議し、まとめをスプレッドシートに記入。

教材を使用しやすい環境で教科研修を行い、他の参加者の提出物等が研修後も確認できるようにした。

【教科指導基礎研修Ⅲ】

模造紙・付せんを用いたグループ協議の結果を、ワールド・カフェ形式(構成員を入れ替えながら自由な対話)で深めた。研修終了後、模造紙を撮影し、Classroom に掲示。他グループの協議内容も閲覧可能にした。

【課題研究研修】

1年間の課題研究の成果をグループごとにプレゼンテーションソフトで発表。全参加者のスライドデータと全グループの発表内容を共有ドライブにおき、確認できるようにした。

(2) 校内研修で活用できるようなワークシートを用いた研修講座の実施例

【キャリア教育 基本(学校力の向上を目指す研修講座)】

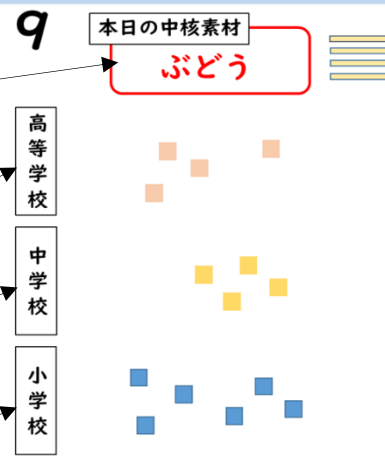
○具体的取組

地域素材を生かしたキャリア教育を考えるためのグループワークにおいて、小中高を一貫したキャリア教育の計画案を模造紙に作成

○校内研修での活用例

模造紙と付せんの代わりに、ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを利用して、同時編集で行うことも可能。

- ・ 総合的な学習・探究の時間等、学校で一貫した学習計画の作成
- ・ 各教科の学年を横断した指導計画の作成
- ・ その他、特活や健康教育など、3年間を見通した計画の作成



この紙を貼るだけで、校内研修用の模造紙を作成できます。

II 研修講座(校内研修を含む)の在り方を構築する。

(1) 令和6年度は義務キャリアアップ研修Ⅰのまとめとなる機会を設定

令和5年度		令和6年度
全体研修	→	全体研修
ICT活用指導力向上研修Ⅳ	→	教師力向上研修Ⅲ
教師力向上研修Ⅲ	→	教師力向上研修Ⅳ
教師力向上研修Ⅳ	→	課題研究研修(オンライン)

【全体研修】の中に、【ICT活用指導力向上研修Ⅳ】を含め、新たに【課題研究研修】を設けた。

【課題研究研修】

自己課題に基づく実践について、資料を用いて発表し、参加者からフィードバックを得るオンライン講座です。これから更に伸ばしたい力や、克服したい課題を明確にします。研修を通して、1年間の研修をふりかえり、次のキャリアステージ(伸長期相当)につなげます。

(2) キャリアアップ研修Ⅲでの動画や資料の提供

スマートニュース メディア研究所が作成した動画【(1) デジタル時代のメディアリテラシー、(2) ニュースを考える、(3) デジタル・プラットフォームの仕組みとリスク、(4) メディアリテラシーについて】や資料を Google ドライブに掲載し、受講者が校内研修で活用できるようにした。

受講者の声

- 「吟味する」という癖をつけることは、日々の学校生活や授業の中でも実践できると感じた。(小学校教諭)
- お話の内容はもちろん、動画教材が本当にありがたいと思った。(中学校教諭)
- 様々な資料も見せてもらいたと思います。(中学校教諭)
- フェイクニュースのクイズがとても参考になりました。(特別支援学校教諭)

Ⅲ 受講者のふりかえり等を充実させ、教師の学びを可視化する。

(1) 事前アンケートの内容を踏まえた実践発表の実施 (高校キャリアアップ研修Ⅱ【教職研修Ⅰ、Ⅱ】)

受講者からのふりかえり

探究型学習を扱う研修を行った際、多くの先生方が探究に関する授業に不安や悩みを抱えていることが判明。【教職研修Ⅰ】

課題の可視化

受講者に事前アンケートを取り、それぞれの持つ、疑問点や課題を明らかにした。【教職研修Ⅱ】

課題を踏まえた研修

実践発表者3名にアンケート結果を伝え、受講者の知りたいことを踏まえて、実践発表をしていただいた。質疑応答の時間で、さらに追究した。

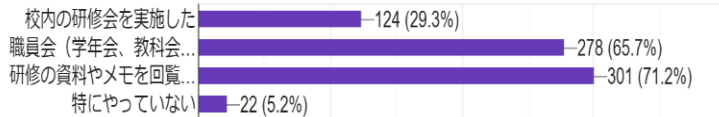
受講者の変容

研修後のふりかえりから、受講者の探究型学習に対する抵抗感が薄れ、積極的に取り組みたいという、気持ちの変化が見られた。

(2) 義務教頭マネジメント研修でのアンケート調査

今年度、校外の研修に参加した先生が、校内に研修を広める機会がありましたか。(複数回答可)

423件の回答



※複数の回答があったもののみ抜粋

センター研修を校内にどのように還元しているのかを調査した結果、校内の研修会を実施した学校は30%、職員会(学年会、教科回答を含む)で発表した学校は65%、研修資料やメモを回覧した学校は70%あった。

多くの学校で、何らかの形で研修内容を広める機会をとっていることがわかる。校外の研修に参加した先生方が、学校に戻ってその内容を広めることは、学んだことを自分の言葉で表出することで、より研修が充実したものになるだけでなく、学校全体の教育力を高めることにもなる。帰校後の実践に加え、校外研修での学びが同僚と共有するための校内研修等につながるようになっていきたい。

成果

校内研修の充実を念頭に、令和5年度の研修講座では、帰校後に校内研修でそのまま活用できるワークシートや動画等を作成し、受講者の皆様に提供してきました。紙での配布や Google Classroom・ドライブでの共有等を行いました。アナログ・デジタルともに、それぞれのよさがあることに気づきました。また、研修講座のふりかえりや事前アンケート等を回収し、研修講座の運営・構築に生かすことで、受講者の困り感や課題に寄り添うことができ、その後の受講者の深い学びにつなげていくことができると実感できました。

課題

講座のねらいやグループワークの意図を十分に伝えることができていると、その後のワークシートの活用が進まなかったり、全校(校内)に研修内容を広げ、普及させることが難しくなったりすると分かりました。

今後も校内研修を充実させるために、来年度も当センターの研修講座において、各講座のねらいを明確にし、受講者の困り感や課題に寄り添った具体的な取組を進めてまいりますので、各講座を受講した際には、講座のテキストやワークシート等を活用し、校内研修(校内への普及活動)を推進していただくと幸いです。